



2025年(令和7年)12月22日 月曜日

茨城新聞

努力重ねる大切さ訴え



生徒に金メダルを見せ触れてもらう永野雄大さん(左)＝常陸大宮市上小瀬

常陸大宮で講演

フェンシング男子 パリ五輪「金」の永野さん
パリ五輪フェンシングの男子フルール団体で金メダルに輝いた水戸市出身の永野雄大選手が9日、常陸大宮市上小瀬の緒川地域センターで、「夢への挑戦」と題して講演を行った。同所の市立明峰中と県立小瀬高の教育講演会で、同校の生徒に向けて、夢に向かって努力する大切さを訴えた。

小学1年で競技を始めた後、「暇があったら練習し永野選手は、1992年のバルセロナ五輪日本代表の父・義秀さんの教えを受けた。高校生で入ったJOCエリートアカデミーで、他選手にかなわず挫折を味わうこともあった。中大進学は、3位決定戦で涙をのんだ。

中高生の夢実現へエール

だ。しかし、切り替えて「自分はスピードがあるわけではない。どうすれば勝てるか。全身の体の動きにどう剣を合わせるかが武器」と長所を伸ばした。悔しさをバネにつらい練習を貫き、世界で通用するようになった。
パリ五輪では個人戦に出場できなかったが、団体金に目標を定めた。イタリアとの決勝で、1点リードの場面では番が回ってきて、5連続得点で優勝をたぐり寄せた。「緊張で頭が真っ白になったが、駆け引きより、自分が決めた動きを出そうと考えをシンプルにした。極限の場面で練習通り力が出せた」と振り返った。最後に「何か好きで熱中できる事を見つけてほしい。全力でやる切るのもありかな」とエールを送った。
小瀬高3年の長沼祥太さんは「結果がすぐ出なくても、努力し続けていけば結果が変わってくる、との言葉が印象深かった。自分も将来の夢を実現したい」、明峰中2年の岸なをさんは「負けても、すぐ立ち直り、次へと向かう姿がすごいと思った。諦めずに挑戦する姿を見習いたい」と感想を述べた。

(高畠和弘)

“OSE Challenge ～catch your dreams～”